



## 映画上映会

「こわれること いきること」

アンケート回答

### 1. 作品のご感想をご自由にお書きください

- ・今回の映画を観て、震災で家族を失った苦しさや介護施設での支援者と利用者との関係性など心に響く場面がたくさんありました。特に由美子さんと遥さんの関係性は特に感動する部分が多かったです。
- ・介護の現場について知らなかったことがたくさん描かれており、知ることの大切さを改めて考えさせられた。
- ・自分の身に置き換えてみるができる映画だったと思う。
- ・とてもよかった。泣きました。
- ・介護に焦点を当てていただき、ありがとうございます。業務の大変さ、老いていくことの大変さ（死んでいくことの大変さ）、それを支えていく家族の大変さ、施設の方々の大変さをひしひしと感ずることができました。
- ・涙ながらに観ました。よかったです。改めて介護について考えました。少しでも周りに迷惑をかけないように、ストレッチとか食事とか頑張ります。また、残りの日々楽しく生きていこうと思います。
- ・もっと多くの人に見てほしい作品でした。
- ・福祉の現場で働いています。すてきな映画をありがとうございました。
- ・年齢とともに介護の大切さに気付いてきました。それと、介護をするのは難しいと感じます。
- ・私は10年前まで介護の仕事をしておりましたので、夜勤は月に1度だったのですが、一人ひとり人格も違い、言葉一つひとつとても気持ちを込めて話しをしておりました。今改めて大変な仕事をしていたと思っております。
- ・私は義理の母を介護していました。娘も介護の仕事をしていましたので、本当に考えさせられました。北沢監督にこういった作品を作ってもらってよかったです。今日は来てよかったです。

- ・介護の現場の大変さとその中での喜びを見出して介護を続けていけるのかと思った。人と人とのつながりが大事だと考えさせられました。
- ・「事実は小説よりも奇なりき」だが、よくよく介護の現場を捉えてあった。ただ、今の介護の現場でこの映画程手が尽くせないのも現実。介護者として本人の気持ちに添えない自分をいつも責めます。ただ、今の介護者にやはり手厚い報酬をあげてほしい。そんな声がこの映画をみてあがるとうれしい。
- ・介護の経験があり、両親のことを思い出して涙が出ました。
- ・とても感動しました。介護の大変さ、その中にもいろんな感情が表現されていてとてもよかったです。
- ・3.11などの影響もあり、生きていながら様々な苦しみを抱えている方々が必死に今を生きようとしていると想った。また、同じ境遇を持った方たちが互いに支えあい、生きていこうとしており、とても感動した。
- ・介護職に就いて、生きる希望を見出し成長していく主人公の姿に感動しました。また、家族の大切さ、人と人とのつながりの大切さについて学ぶことができた。フルートの演奏をするシーンが一番印象に残りました。素敵な映画をありがとうございました。
- ・映画を観て介護をすることの大変さを知り、相手のことを考えすぎると自分がパンクしてしまうので誰かに話すことが大事なのかなとおもいました。震災の恐ろしさも同時に考えることができました。
- ・とても感動しました。パーキンソンの方と接しています。とてもわかる場所が多かったです。
- ・大学時代の友人を地震と津波で亡くしたことがあり、苦しい気持ちがあったけど前に進んで生きようという気持ちになりました。
- ・人はひとりでは生きていけない。いろんな人との関わりの中でこそ生きていけるのだなと考えさせられた。
- ・福祉（介護）の現状、大変さをしることができよかったです。
- ・介護現場でのあるあるの場面があり、久しぶりに仕事での出来事を思い出しました。現場ではもっと厳しいです。
- ・身近な問題であります。施設の方の大変さがわかりました。
- ・この映画を観て、介護する側の大変さをよくわかりました。年齢を重ねていくと本当にありがたく思います。介護に携わっている人の給料が少ないと聞きます。
- ・今、現状あることがどんどん大変になってきていることに痛感しています。

- ・大変心にしみることばかりでよかった。
- ・仕事の内容など一番気持ちを大切にしてくださっていることがわかりました。
- ・現在、こわれかかった姉を看ています。年々老いていく自分のことや子どもたちに迷惑をかけられないという思いの中で今日は拝見しました。考えさせられました。
- ・「思い」「尊厳」「生老病死」について改めて考える機会となった。
- ・生きることは苦しい。安楽死を希望します。
- ・介護施設を題にしての映画で施設の介護者に対してこれからも脚光を浴びるような映画が増えると良いと思いました。私たちも介護にかかわる仕事をしているが、自分の仕事に誇りをもって頑張ります。
- ・介護の現場を知るきっかけになったと思います。人とどうかかわっていけるか考えることができました。
- ・介護の大切さ、初めて福祉関係の仕事の映画を観ました。将来の自分もこうなるのだと寂しくもなりました。福祉の大切さを知ってほしい。
- ・老後は施設に入ればよいと簡単に考えていたが、途中で入るのが嫌になり、最後はやっぱり施設を探そうと思いました。
- ・自分の将来のこととして受け止め感じたことと介護に携わってくださっている方々の大変さを知り、敬意をしたいと思った。
- ・最初地震が来た映像が出たので「あー見たくない」と思いましたが、自分の家族を失い、そして介護士になった一人の女性の生き方がとても感動しました。施設でフルートを皆の前で吹かれたとき、涙が流れました。素晴らしかったです。
- ・見に来てよかった。感動！！
- ・介護の仕事の大変さが分かり、また、自分もそのようにお世話になるのかなと思ったり、主人と重ねて観させてもらいました。
- ・介護されるほうの目線で観させてもらい、間もなくやってくる死。施設で世話になる（80代の私）。とてもありがたかったです。隣町から同級生4人で来ました！
- ・介護を受ける側と働く側の気持ちが分かりとても良かったです。感動しました。
- ・自分の将来の夢が介護士でたくさん勉強することができたし、もっとこのような作品が増えてほしいし、もっと多くの人々が介護についてもっと知ってほしい。たくさんの人々が施設への偏見がなくなり、利用しやすくなってほしい。

- ・震災の怖さや福祉の介護職の苦勞さ、やりがいを知れた。生きる価値、生きる意味などを改めて深く考えさせられた。今の自分をもっと大切にしていきたいなと思った。
- ・震災は東北に限った話ではないので、明日は我が身としてとらえることが大切だと思った。
- ・今回の作品を観て、利用者に何かアクシデントが起きた時の対応や利用者とのコミュニケーションをみて、目を合わせたり、声をかけるときなど本当の介護現場を見ているようでした。また、今の暮らしている日常が当たり前だとは思わず感謝して生きていこうと思いました。
- ・頑固な人で周りの人にたくさん迷惑をかけていた人がいたけど、主人公の女性の方に饅頭をプレゼントしたシーンがとても感動しました。
- ・作品全体をとおして、命のはかなさやそれを乗り越え生きていくということを学んだ。
- ・生きることへの苦しさや、それでもなお生き続ける強さなど、登場人物の静かな対話など「生」の尊さが伝わってきました。
- ・主人公の悲しみや苦しんでいる様子がすごかった。将来母の介護をするときはしっかり向き合ってやりたいと思う。
- ・福祉に関する映画ははじめてで、入居者と介護士の関係性や施設での生と死の場面がよく伝わって感動した。
- ・私は、はるかに近い年齢なので、はるか目線で映画をみましたが、親や曾祖母はいつ亡くなるかわからないので大切にしようと思いました。
- ・今、家族と離れて暮らしているからこそ帰れるときに家に帰って、家族を大切にしたいと改めて思いました。そして、将来、人とかかわる仕事に就く立場として、とても勉強になりました。
- ・菊田さんがはるちを励ますために施設を出て、饅頭を買いに行ったところがとても感動した。また、介護の現状や介護職のつらさなど体感した。私は曾祖父、曾祖母が過去に施設に入っていたが二人は施設で本当によかったのかと考えてしまった。
- ・若いころから家族を失って、そして大切な人にも裏切られて、それでも介護のお仕事に立ち向かう姿勢がとても素敵だなと思ったし、私もどれだけ辛くても周りへの感謝を忘れず頑張ろうと思いました。
- ・自分たちも他人事ではない。すでに目の前です。難しい問題です。

- ・福祉に関する映画はなかなかないので、今回見る機会を得ることができてよかった。震災によって心の傷を負った主人公が仕事での人との関わりを通じてゆっくりと立ち直っていく姿が感動した。

## 2. 会場2. 会場運営についてご意見・ご要望がありましたらお書きください

- ・エアコンが効きすぎていて寒かった。
- ・これからもよいものは続けてほしいと思います。
- ・とてもよかったです。
- ・一番後ろでも音も映像もきれいでとても映画が見やすくまた来たいとおもいました。
- ・またこういう機会をたくさん作ってください。
- ・次回も楽しみにしています。
- ・とても良い作品を観られてよかったと思います。
- ・大変良かったです。このような企画を今後ともお願いします。
- ・現実現場の実情はよい面ばかりではないことと思います。将来を考えると不安でいっぱいです。
- ・今日の企画をしてくださったことに感謝いたします。ありがとうございました。